

令和4年1月15日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム
令和4年度 第1回

仲尼は日月なり 得て踰ゆる無し

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくどうぞお願い致します。コロナが広がっておりますので、本日の講話は70分に短縮して行なうことを先ほどの幹事会で決めて戴いたようです。臨機応変で結構だと思います。

では素読から参ります。本日は子張篇の24です。

【二十四】^{しゆくそん ぶしゆく ちゆうじ そし しこう いわ もつ な な ちゆうじ そし}叔孫武叔 仲尼を毀る。子貢 曰く、以て為すこと無かれ。仲尼は毀るべ
^{たにん けんじゃ きゆうりよう なお こ ちゆうじ にちげつ え こ}からざるなり。他人の賢者は丘 陵なり。猶 踰ゆるべし。仲尼は日月なり。得て踰ゆる
^{な ひとみずか た ほつ いえど そ なん にちげつ そこな まさ そ りよう し}無し。人 自ら絶たんと欲すと 雖も、其れ何ぞ日月を 傷 わんや。多に其の量 を知らざ
^みるを見るなりと。

叔孫家の武叔という人は、魯の国の大夫です。孔子も一時期魯国に仕えましたから、その時の同僚のような立場だったわけです。同じ仲間だと視線が横並びになりますから、鳴り物入りで扱われる孔子に対して、それほど孔子が偉いのか、ものによっては自分の方が上ではないか、孔子の弟子にも優れた人物がいるではないか・・・という気持ちがあるのでしょう。

こういう話は今の時代でも結構ありますね。先日、海部元首相が91歳で亡くなりました。報道で小沢一郎さんがコメントをしていましたが、「かつて二人で共に政治に励んだ時期がある」と、話の仕方が同列でした。小沢さんにすれば、同格という意識があるのでしょうが、外国から見れば海部元総理大臣という扱いで、小沢さんは総理大臣になっていませんので、同列に並べて報道はしません。

では、解説致します。

武叔が子貢に孔子の悪口を言った。

・・・武叔は、かつての仲間の孔子だけが何故もてはやされるのだと腹の中にあるので、同格の人間が同格の人間のことを言って何が悪いのかとばかり子貢に対して孔子の悪口を言ったのでしょう。子貢は口八丁手八丁の切れるお弟子さんですから、はた目には孔子をしのぐと見えてもおかしくはないと感じますが、それを聞いて反論しています。

子貢が言うには、そういう言い方はしない方がよろしい。孔先生は誇る対象ではありません。世の中には賢人と言われる人が沢山いるけれども、みな丘のようなもので、頑張れば到達することが出来る。しかし孔先生は太陽や月のようなもので、身近に見えるけれど努力をしても到底到達することは出来ない。人が太陽や月と縁を切りたいと思っても、太陽や月には何の影響もない。かえって自分の底の浅さを天下に露呈するようなものです。

・・・悪口を言うのはおやめなさい。天に唾を吐くようなもので自分に返ってきますよ、と子貢が答えたわけです。

先日、体操の内村航平選手の引退会見を見ました。「世界の頂点を目指すための練習がもう出来なくなった」と言っていました。この科白は簡単なようで、なかなか言えませんね。日々の努力は相当なものだったのだと思います。

余談になりますが、私は身体の手入れ方法ですが、80代を意識した中身に変えました。腿上げ運動、腿下げ運動、四股を踏む、内股を強化する体操等々、色々な運動を組み合わせ毎日1時間くらい実行しています。今年は筋力を強化しようと考えて、昨年より時間を多くして更に中身を濃くしました。半月経ちましたが、毎日続けています。自転車も自宅に戻っている時には乗っています。特に風が強い時など、立ちこぎをしながら進むと結構身体にも良いようです。足が動かなくなった結果あの世が近くなるという話を結構聞くので、意識してやっています。

また、先月は運転免許証の更新で認知症の検査をしました。それは問題なく終わって、先日は高齢者講習を受けました。運転の実地訓練では、ブレーキを踏んでいる時にジリジリと車が出た癖を指摘されたり、逆走する危険性も指摘されました。自分で無意識にやっていることが危険に繋がっていると気づかされました。たまには試験を受けたり、検査をする必要があると思いました。これからの時代を生き抜ける頭と身体を維持しなければならぬと、日々色々なものを見て感じています。

今日の論語を現代に置き換えて考えると、果たして孔子のような日月の如き人がいるでしょうか。私の知っている限りではおりません。次元が違うでしょうが、日本の場合は天皇制がありますから、天皇陛下や皇室の方々は自らを常に向上させようと努力しておられると感じます。昭和天皇以降、特に上皇陛下が努力されて、新しい象徴的な天皇制が日本の中に作られました。全く次元が違いますが、そういう方がおられるというだけで何かホッとすることがあります。王族のある他の国々と比べても、日本は幸せな国だなあと改め

て感じています。

孔子と比べるのはどうかと思いますが、日本の中で及びもつかない努力をしていたのは誰かと考えました。本屋に行くと安岡正篤先生や中村天風先生の本が沢山あります。最近では渋澤栄一の本が溢れています。私は自分で学んでみて、この3人の方にはとても及びもつかないなと畏敬の念をもって見えています。

私が朝1時間ストレッチをするのは、天風先生の真似です。天風先生は午前中、上半身裸で足踏み運動をやっておられた記録が残っています。身体の鍛え方、頭の手入れの仕方がとてもとても及ばないと感じます。天風先生の場合は、ご本人は悟りを開くためにやったわけではないでしょうが、結果として悟りを開き、教育するという一生を送られました。今年は講話の中で時々、天風先生についての話をに入れていこうと思っています。

前から申し上げていますが、学問には縦軸と横軸が必要です。天風先生の場合は縦軸に当たるものの考え方が大変多い。安岡先生は横軸に関する知識を増やすのに大変素晴らしい先生だと感じています。

渋澤栄一については大河ドラマでご覧になっている方も多いと存じますが、ドラマでは悲喜こもごも本当の話も作り話も混ざっています。栄一の業績は、下半身を除けば素晴らしいことは自他共に認めるものなので、上半身をベースにしたお話をしていきたいと思っています。

ちなみに、私は今年の詩吟の大会で渋澤栄一についてお話をさせて戴きました。30分という時間でしたので、最初に栄一本人の言った台詞を三つ申し上げて、どの観点で話を聞きたいか伺いました。同じ質問をこの会場におられる方とズームで聞いておられる方に致します。渋澤栄一の話をするとしたら、次のどれについて聞きたいですか？

①渋澤栄一は自分の人生で面白いのは30代前半迄で、その後はたいして面白くないと言っています。波瀾万丈の前半生を聞いてみたい方

②明眸皓齒を好むといえども、俯仰天地に恥じることなし（女性問題を除けば、何ら恥ずるところはない）と言っていますので、女性問題を中心にした話を聞いてみたい方

③生涯を通じて、どういう業績を残したかを聞いてみたい方

・・・詩吟の大会では、30代前半までの波瀾万丈の人生を聞きたいという方が圧倒的に多く、次いで女性問題でした。皆様方に手を挙げて戴いた結果は、生涯を通じてどういう業績を残したかが多数で、女性問題を聞きたいという方はいませんでした。学びたいという方は、女性問題は棚に上げたなという印象を持ちました。参考にさせて戴きます。

ついでにもう一つ伺います。これから私は西郷隆盛について書こうと思っているので、

同じようなことをお聞きします。西郷隆盛の話を聞くとしたら、次のどの視点の話がよろしいですか。

①西郷隆盛が関係した女性の視点で見た西郷隆盛像

②西郷隆盛が生涯を通じて残した業績について

③西郷隆盛は生涯自分を磨き続けているので、その原動力ともいえる西郷隆盛が自らに課した教育について

・・・③が多いですね。西郷隆盛がなぜあのような人物になったか、小さい時の郷中（ごじゅう）教育、社会に出てから誰から教育を受けたのか、西郷隆盛を西郷隆盛たらしめた教育を中心に、機会をみて話をさせて戴くことにします。

ちなみに郷中教育とは、薩摩藩が行った典型的な教育です。郷中（今で言えば町内）で子供に徹底的に文武両道を教え込んでいくというものです。西郷隆盛は 1828 年に生まれ、5 歳の時に郷中教育の最初に入る小稚児（こちご）組に入りました。9 歳になると長稚児（おせちご）組、13 歳で元服をすると二才（にせ）組に入り、19 歳の時に二才頭（にせがしら）になっています。

話が逸れました。とても超えられない人物ということで西郷隆盛、渋澤栄一、安岡正篤、中村天風をご紹介しました。皆さんも自分に親近感を与えてくれるような人物、この人のことを調べてみたいと思う人物が出て来たら徹底的に調べ、深掘りしてみる。自分自身にとって越えられない壁になっているような先生がいたら、是非取り組んで戴きたいと存じます。

生きている方でなくても、本の中の方でも結構ですが、皆さんは追い越したいと思う先生や、超えたいとは言わないが何とか追いつきたいと思う先生はおられますか？ 何かそういう具体的な目標が傍にあるとよいですね。私はそう思って毎日過ごしております。頭の中にあるのは天風先生、安岡先生、木内信胤先生です。他にも追いつけないと思う先生が沢山おられるので、何とか自分なりの領域は作り上げたいと思っています。

恒例の質問

では、恒例の質問に入ります。昨年を振り返ってお聞きします。

- 昨年一年間、良い日が続いたと思う方
- 昨年一年間、嘘をつかなかった、又はとても少なかった方
- 昨年一年間、有難うと言いつづけたし、有難うと言われ続けた方
- 昨年一年間、我ながらよく身体の手入れを続けたと思う方

○ 昨年一年間、自分磨きを一所懸命やったという方

何人か手が挙がらなかった方がおられました。ご自分で客観的に自分の行動やらを評価するのではありません。あくまでも主観です。面白くないことが沢山あったとしても、少しでも良い事があればそれを拡大解釈して、嫌な事は忘れる。それを繰り返していくと、我ながらよくやったと思える日々になります。

○ 昨晚寝る時、明日以降 <〇〇が出来た。良かったな> と思って眠った方

私は昨晚、<明日は北関東フォーラムがあって、その後詩吟をして、次世代の勉強会がある。それらが総て上手くいった。我ながらいい話が出来た。良かった良かった> 感じて眠りました。これが、<明日は北関東フォーラムがある。ちゃんと話をせねばいかんな。こういう話をしたいな…> と思って寝た場合は、大概満足しません。大事なのは、<こうやりたいな> と思うのではなくて、<こういう事が出来て良かったな> と過去形で思って寝る癖をつけるのです。そうすると飛躍的に、やるべき事が無意識のうちに出来てきます。是非、眠る直前を大事にして戴くとよろしいでしょう。

令和4年を考える

今年壬寅（じんいん・みずのえとら）です。

○人が世に出るチャンス之年・・・「壬」という文字は、隠れていた人物が世に出る。国家から見れば、素晴らしい指導者が誕生する年回りです。岸田首相がそういう人物かどうか、これからの政治運営によってそういう評価が出るのかもしれませんが、まだ分かりません。会社でも自治体でも、ありとあらゆる組織体で、素晴らしい人物が出てくる年回りだと考えて戴くとよろしいでしょう。

「寅」は、協力し合うという意味です。素晴らしい人物が出たなら、その人物と志を同じく者同士が協力し合っていく。結果として、良い年回りにしていく巡り合わせになっているとお考え下さい。

世の中デジタル化がどんどん進んでいますから、その点から見ると、デジタル人材が世に出やすい状況です。今年人が世に出るチャンスが大変多い年だと考えています。

○コロナとは共存・・・コロナとの共存は、向こう5年はかかると思っています。最初は2年ほどで収まると思っていましたが、収まりません。途中で3年はかかると考えましたが、3年でもありません。今年、新たな視点で見ると、従来考えていたコロナと今のコロナと中身が変わりました。

そもそも何故コロナに感染するのか？ 当初は接触感染もかなり疑われました。エボラ

出血熱を想定した部分があったので、接触感染を警戒して、コロナで亡くなった人との対面も出来ませんでした。しかしプリンセス号の時に、空気感染であることが専門家も日本政府も分かったわけです。ですから三密対策を打ち出しました。コロナは空中に漂っているウィルスを吸い込むことによって、喉のあたりにウィルスが付着して、そこから発症するわけです。したがって空気感染であるという事が、世界各国の認識になりました。

当初は死亡する方もどんどん出て、多数の重症患者も出ました。それが落ち着いたら、今度はオミクロン株が出ました。オミクロン株は感染力が強くても重症化しないので、さほど恐がることはないというのが今の報道の仕方になっています。この先2年、3年くらいまではオミクロン株、もしくは別の変異株でいくでしょう。

その後は、ワクチンを接種した人たちの副反応が出てくる時期であろうと思っています。おそらく3年目くらいから色々な症状が出てくると思います。そして副反応に対する薬（服薬か、コロナワクチンに対する新しいワクチンかもしれません）が世の中に出てくるはずですが、実際、ワクチン接種後の副反応に対する薬の開発は日本で進んでいる、とアメリカが発表しています。ですから今は日本政府もアメリカ政府も、ワクチン接種後の副反応に対する対策を水面下で必死になって進めている最中です。それが表面化するのには3年後ではないかと思っています。そういったワクチン接種後の副反応を見据えると、コロナ騒動は向こう5年は覚悟しておいた方がよいでしょう。

私はコロナと共存の最大の解決策は、コロナに罹らないことだと思っています。そのために自分自身で決めていることを申し上げます。色々な対策がありますが、その中から取捨選択して絶対に必要なものは、ウィルスを遮断するマスク・うがい・換気、この3つがコロナに罹らないための条件です。三密、アルコール消毒、アクリル板等々は氣休めだと思っています。やらないよりやった方が良いという対策と、絶対に守るものを無意識の内に分けていたことに自分自身気が付きました。

もう一つ、ペストの頃から一貫して人類はウィルスと戦ってきたわけですが、生き残った人々の共通点は、ごく当たり前ですが、健康であることでした。何度も申し上げているように、よく眠り・よく食べ・よく動く、そして満足して眠る。これをやっていけばコロナに罹らないのだと思っています。

○次の人を育てる・・・論語の基本は、私は「述」だと思っています。どの学者の先生と話をしても、「述」を一番に挙げる方はいませんし、「述」にはあまり重きを置いていないという印象を受けました。これは、会社を立ち上げて次々にバトンタッチをしていくことが使命である実業界の人の考え方と、学者と呼ばれる方の考え方とは根っこの部分で

違っているのだと気付かされた部分でもあります。

自分がこれは正しい、これが真理だと思ったものは、後継者と認めた人間に対してきちんと伝えていく。仏教に「写瓶」という言葉がありますが、その考え方が「述」と繋がると思っています。写瓶とは瓶の水を他の瓶にそっくり移すという意味で、自分の持っている知識や悟った事、自分の能力の全てをただ一人の弟子に移し替えていく。自分の身体に入っているものを全て自分が認めた弟子に注ぎ込んでいくことが写瓶で、「述」とはそれを続けていく作業を意味します。

次の人を育てるということは、自分が発見し、育てて、結論を導き出したものを次の人間に伝える。次の人間はそれを受けて、更に自分が発見したものや悟ったものを加えて、また次の人間につなげていく。次の人を育てない限り、写瓶は行われません。

空海が唐に渡り密教の大家である恵果和尚に師事した時、恵果和尚は自分の習得した仏道の極意を伝える人物がやっと私の前に現われたと大変喜んだ。恵果和尚には千人もの弟子がいましたが、はるばる日本から来た空海こそが私の後継者だと言って写瓶を行ったという話が伝わっています。この人間にこそ真理を伝えられる・・・こういうことはそうそうありません。中村天風先生もカリアップ師からそういう言葉を言われ、ヨガの奥義を究めて、日本に帰って来て心身統一道を創始し広げていきました。

自分が身に付けたもの全てを伝えられる人を探し出したなら、幸せなことですね。それが最大の幸せを得る秘訣でもあろうと考えています。どうぞ自分自身の道を究めて、その道を伝える人物を探して育てる。その繰り返しを人間に与えられていると申し上げて、本日の講話を終了致します。ご清聴有難うございました。